

# 図書案内

2024年 6月号

## 涙

6月になりました。徐々に雨の日も増え、じめじめとした天候の日が続いていますね。そんなじめじめした気分を吹き飛ばすためにも、図書室に立ち寄って本を手にとってみませんか。今月のテーマは「涙」です。涙雨という言葉もあるように、雨と涙は文学作品の中でもしばしば結び付けて表現されます。今月紹介する作品を読んで、梅雨を過ごしてみたいかでしょうか。



### 『色の物語 青』

／ハイリー・エドワーズ＝デュジャルダン著 丸山明美訳



涙と言ったら・・・皆さんは何を想像しますか？そうです！青色ですよ。ということで今回紹介する本はフェルメールや葛飾北斎など世界中の多くの作家が愛した青について、青が使われた著名な絵画や工芸品の大きなビジュアルとともに図解した本です。今なお世界中の多くの作家と魅了している青の歴史について深く知ってみませんか？

ある朝、黒を切らしていた私たちの一人が青を使った。印象派はこうして生まれたのである。

オーギュスト・ルノワール

### 『神様のピオトープ』／凧良ゆう



うる波は、事故死した夫の「鹿野くん」の幽霊と一緒に暮らしています。夫の幽霊の存在を隠しながら生きている彼女ですが、あるときその秘密を周囲に知られてしまいます。秘密と不安を抱える彼女を取り巻く、不器用な愛情を抱く人たちとの物語です。周りの常識と違うことへの悩みを感じながら懸命に生きる彼らの物語を読むうちに、心が揺さぶられるような苦しさや感動を覚える一冊です。

通奏低音のように絶えず流れる不安を聴きながら、今夜も、明日も、明後日も、わたしも、みんなも、秘密と決意に満ちた暮らしを守っていきましょう。

### 『沖晴くんの涙を殺して』／額賀 滯



11年前、大津波に呑まれた沖晴はその際「喜び」以外の感情を失ってしまう。そんな彼は高校で元音楽教師の京香と出会い、段々と心が通うことで失った感情を取り戻していく。共に過ごす中で生と死に向き合い続ける二人を見ていると、人間にはあって当たり前で時には煩わしくさえ思う「感情」がどれほど愛おしいものかに気付かされます。

「そうだ。ただ、自分が生きていることを全身で感じていただけた。」

### 『タスキメシ』／額賀 滯



長距離走の選手として活躍していた高校生が膝を故障し、料理を通して陸上にかかわりはじめる物語です。新たに自分が夢中になれることを見つけ、そこへ進んでいく主人公の姿から自分を形成する過程を垣間見ることができます。臨場感あふれる駅伝とともにそれぞれの思いが交錯する、高校生たちの心情が熱く描かれた作品です。既刊シリーズ3冊すべてが図書室に置かれています。

「どうして……俺は、そこにいないんだろうな」

## 涙とコンタクトレンズ

角膜は透明で血管がないので、主に涙によって必要な酸素を取り入れ、老廃物を排出しています。コンタクトレンズは角膜を覆いますから、このメカニズムに負担がかかります。現在発売されているほとんどのコンタクトレンズは酸素を通しますが、その程度はさまざまです。角膜に酸素が届くには主に2つのルートがあって、コンタクトレンズを通った酸素が角膜に届くルートの他に、レンズ下の涙の交換によって届くルートがあります。角膜が酸素不足にならないよう、装用時間が長ならないようにしましょう。意識して深いまばたきをするようにし、回数も多くしましょう。涙の中には、抗菌作用のある物質が含まれていて、角膜を守る働きをしています。涙が正常に分泌されているかどうかは、コンタクトレンズを安全に使用する際の大事なチェックポイントです。

(参考URL：<https://www.gankaikai.or.jp/health/46/>)